

施策No.	政策名	みんなで築く自治のまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	神野 広幸
6-1	施策名	市民協働のまちづくり	関係課	秘書広報課、総務課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	市民		①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値					41,278					
				見込値						
				実績値						
				見込値						
				実績値						
施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		
市民と行政が情報を共有し、協働によるまちづくりを実践している。	①行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合	%	目標値	9.0	10.5	12.0	13.5	15.0		
			実績値	8.3						
	②行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合	%	目標値	10.0	12.0	14.5	17.0	20.0		
			実績値	8.7						
	③地域の活動に参加している市民の割合	%	目標値	35.5	39.0	42.5	46.0	50.0		
			実績値	56.6						
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
	成果指標設定の考え方	・”市民と行政が情報を共有し”については、①「行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合」で把握する。 ・“協働によるまちづくりを実践している”については、②「行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合」、③「地域の活動に参加している市民の割合」で把握する。								
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合、②行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合、③地域の活動に参加している市民の割合は、市民アンケートより求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)			
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 向上した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 成果がすべて低下した	
背景・要因	・行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合は、H28年度の7.0%に比べ1.3ポイント上回り、8.3%となっている。広報紙作成においては、若年層の紙面離れを食い止めるために、10月から紙面のリニューアルを実施した。また、写真を大きく掲載することで読み易い紙面作成に努めた。インターネットの分野においては、11月からは、ホームページのトップページをリニューアルし、検索し易くしたことが要因と思われる。 ・「行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合」と「地域の活動に参加している市民の割合」はH29年度からの調査であり、過去との比較は不可能。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	・行政の情報が十分に提供されていると感じている市民の割合は、目標値の9.0%に対し、8.3%と目標値を0.7ポイント下回った。 ・「行政が行うまちづくり活動に継続的に参加している市民の割合」は8.7ポイントとなっており、目標値に比べ1.3ポイント下回った。 ・「地域の活動に参加している市民の割合」は56.6ポイントとなっており、目標値に比べ21.1ポイント上回った。		

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
・大好きいばらき県民会議事業の一環で、市民が中心となって、清掃活動やまちづくり活動を行っている。平成29年度は、県西部地区を対象とした大会の運営を担当し、約150名の参加者を対象に、ヤマザクラや伝統芸能、真壁のひなまつりといった桜川市の固有の資源を紹介するなど、桜川市のPRを積極的に行った。 ・市民への行政情報提供の満足度向上のため、ホームページ、および広報紙のリニューアルを行った。広報紙は紙面を読みやすくするために、文字や写真の大きさを変更し、読むものから見るものへの変更を図った。また、ホームページにおいては、ページの見やすさ、大きさのほかに、操作性を向上させ、利用しやすいものへ刷新した。その結果、満足度アップへとつながった。	・市民活動団体の会員の高齢化に伴い、活動内容が縮小されたり、辞める方が増えている。今後は若年層の加入促進のため周知を行う必要がある。また、県事務局の組織改編により、活動内容にも大幅な変更が行われているため、それに対応した事業実施を行う。 ・行政情報提供の満足度が向上したとはいえ、いまだ目標値を下回っている。さらに、若年層の活字離れ、紙面離れは拡大していくことも予想される。この状況を少しでも改善するために、見やすい紙面、アイキャッチする紙面などの作成を行っていくことが重要である。またホームページについては、飽きられず、斬新な画面を目指すなど利用者のニーズを敏感に捉えながら運用していくことが必要である。